



新潟県 支部 報

'81年3月15日

No.10 (春)

(財) 日本野鳥の会新潟県支部

81年の年頭にあたって

支部長 大島 基

人間の「しがらみ」の中にドブプリつかって、人を相手に商売と言う 誠に精神を搾り減らす稼業を 時間に関係なしに際限無くやっておりますと、野鳥達に絶えず接し、自然を謳歌していただける人が たいへん羨ましくて仕方ありません。

しかし、私も長年の野鳥会員「忙中閑有り」の心境で、遠方で鳴く「ツピ、ツーツツ」(シジウカラ)「キューイキューイ」(オナガ)の声を聞くにつけ、雪中餌を求めて仕事場にやってくるセグロセキレイに 餌をさがして

くれる等、「ほっ」と気を抜ける趣味を持っている事に 非常な喜びと優越感にひたれるのです。同時にこの趣味をもっと多くの人達にも分けてあげたいと心底思うのです。

今年も野鳥の会員が、「がんじがらみ」の殺伐たる人間社会から、より多くの人に 自然の美しさを教え、ゆとりのある豊かな生活へと救ってやろうではありませんか。

そんな意味でも、会員増加は十分自然保護に役立てると信じます。会員諸兄のますますの御発展をお祈り申し上げます。

(長岡市新産2丁目9の5)



塩沢町 桑原 民生

越後の名峰苗場山には主に3つの登山ルートがありますが、今回ここで紹介しますのは、そのうちの1つ、苗場山の東南側より赤湯を経て頂上に至るコースの登山口付近です。

越後湯沢を車で通過し、国道17号線を群馬方面に向けて進み、三国峠の手前の苗場国際スキー場で右折し、スキー場の下部を抜けて林道に入ります。この林道は国有林伐採のためつくられた道で、道路に沿って、いたる所、ブナの古木が切り出され、そのあとは植林された若いカラマツの単相林になっています。スキー場も広大な面積が一部のレジャー産業のために伐採されつくし、裏日本特有のブナの原生林が姿を消してしまっています。それを横目でらみながら、二度と元の姿にもどりようのない破壊に対して、やり場のな



い腹立たしさを感じます。

清津川の上流部を川に沿ってガタボコ道を20分。林道は行き止まりとなり、そこから先は、自然倒木なども見られ、人手がまだ加えられていない原生林が続きます。その中に入り込むと何故か救われるような安堵感を生じます。溪流脇に露天風呂のある赤湯まで、徒歩で約1時間。道は清津川から離れて、ブナを主体とするトチ、カツラなどの大木の間をぬって行きます。

5月中旬、この広葉樹林の中では、キビタキ、センダイムシクイ、ウグイス、コルリ、ツツドリ、メボソムシクイ、アオゲラ、アカゲラ、カケス、それにカラ類等の個体数が多く認められます。平野部ではすでに若葉の繁る時期ですが、標高1,000mのこの地点では、残雪も谷間に多く見られ、芽吹き早いブナさえも、まだ枝先のサヤを落したばかりで、林の中が明るく透き通って見えます。いまだ混成群をなしているカラの仲間が枝先で行う曲芸も木の葉に邪魔されることなく、つぶさに見られます。また、日頃、声ばかりであり姿を見せてくれないセンダイムシクイも双眼鏡の中でくっきりとその全体像をあきらかにしてくれます。そして、この時期には、まださえずりがテリトリ宣言になっていないのか、さえずりながらも一本の大木に4~5羽の群をなしている現象もみうけます。

昭和56年度 日本野鳥の会
新潟県支部総会開催予定

- ・日時：56年4月18(土)・19(日)
- ・場所：長岡自治会館(長岡市西神田)
探鳥会(信濃川河川敷)
- ・日程：18日 総会、夕食、野鳥のつどい(長岡の野鳥 研究報告 スライド映写会)
19日 朝食後信濃川探鳥 散会12時
- ・参加費：1泊2食4,000円
- ・申込み：4月5日に締切ります。
— 詳細は同封の案内を一読下さい。 —

様々な鳥の声を聞きながら小1時間。溪流のほとりに一軒の小屋があって、温泉が湧き出ています。ここが赤湯で、ここで清津川は2本の支流と合流します。ここから先は、登山道から離れて、溪流をそ上します。どの沢に入るかはその時の気分次第です。

沢に入り込むと、溪流の鳥、カワガラス、キセキレイ、ミソサザイ、オオルリが見られます。

残念ながら、いまだ、アカショウビン、ヤマセミの姿は確認していません。いつか、きっと出合えるのではないかと期待しています。ゆっくり過ぎすぎて、帰りが夕刻になって足元もおぼつかなくなる頃は、トラツグミ、ヨタカ、それにコノハズクの声も遠くから聞こえます。

この他に1~5mの至近距離で姿を見ることのできた鳥に、ヤマドリ、コマドリ、サシバ、エゾムシクイ等がいます。

また、鳥以外にも、アナグマ、ニホンザル、カモシカなどの他の動物に、ぼったり出喰い対峙することもあります。

5月の赤湯は満開の山桜とともに、夏鳥の姿が若葉に遮られることなく、はっきりとながめられるので、とても嬉しい気分になるところです。

シャクナゲの花の咲いていた赤湯は、今、3丈もの雪にうずもれて、動くものもない静寂の中で、春を待っているのでしょうか。

(塩沢町島新田)

<ウグイス初鳴き、ツバメ初認>
いつ、どこで、聞いたり、見たりしましたか?

春の訪れは、昨春と同じサイクルで繰返されているのでしょうか。昨春調査部でまとめたウグイス初鳴(支部報67参照)とツバメ初認日の調査を今春も実施したいと思います。

「ウグイスの声を いつ どこで聞いた。」
「ツバメの姿を いつ どこで見た。」という報告を事務局へ寄せて下さい。

・家族、知人、職場、いろいろな方々にお願
いしておき その情報を集約して下さい。

探鳥会の結果報告

◎鳥屋野潟探鳥会

初冬の水鳥たちの楽園鳥屋野潟での探鳥会は、11月9日初めて参加されたビギナーも多く、約50名で賑やかでした。最初は晴れていた天候も荒れ模様となり、探鳥を中断して避難しました。

(確認した鳥) カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、トビ、ハタカ、ハマシギ、アオアシシギ、ユリカモメ、ウミネコ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス

< 32種 >



寺泊港探鳥風景 (撮影: 木下弘)

◎寺泊探鳥会

冬の海辺の探鳥会として3回目の寺泊探鳥会は、2月8日まずまずの天気所幸いされ、参加者も48名と賑やかでした。野積海岸グループは荒波に浮き沈みするクロガモ群を寒風に凍えた手でプロミナーで探しだし、また出雲崎港グループは、めったに見ることのできないコクガンとじっくり御対面できました。

(確認した鳥)

<野積、寺泊港> ハジロカイツブリ、コサギ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、クロガモ、ピロードキンクロガモ、シノリガモ、トビ、タゲリ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、ウミネコ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、ツグミ、ホオジロ、ベニマシコ、ウソ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシボトガラス、キジ < 32種 >

<出雲崎港> マガモ、カルガモ、シノリガモ、ウミアイサ、コクガン、トビ、ノスリ、タゲリ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、大型カモメと幼鳥、カモメ、ウミネコ、タヒバリ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ツグミ、シメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシボトガラス < 21種 >

=合計 36種=

ある手紙

新潟市 佐藤 弘

「前略 貴ゴルフクラブ食堂のメニューにある カモナメコそばについて一言申したくお便りします。獺期外にカモが食べられる事を大変不思議に思います。商品価値が高いわけでもないカモを冷凍保存されていたのでしょうか。それともアヒルですか。私はそのどちらでもない 確証はないけれど密猟のカル

ガモと思いますが違いますか。

需要ある所供給有りと言われますが、何も知らないゴルファーに密猟の片棒をかつがせている様なもので、実態を知ったら怒りますよこれは。そばに種物をのせて附加価値を高めるならば、何故他のものではないのか。タイヤをかじるのと大差ないカモを使う理由はない筈です。獺期外にカモをメニューにのせるのは、梨下に冠をただす以上の事、紳士の社交場とか言われるゴルフクラブのする事

ではないと思いますが、いかが。

今後もメニューにのり続けるならば、直接理事長に抗議します。たかが鳥の事とおっしゃいますな、法は法ですから県警に捜査を依頼します。冷凍肉かアヒルかは捜査の過程で明らかになるでしょう。警察が動けば当然新聞記者も後を追います。自然保護の意識が高まっている現在、貴クラブが鳥獣保護及び狩猟に関する法律に違反しているとしたら、格好の記事になるでしょう。もっとも、あの硬くてまじい黒い塊りが、実はニワトリだとおっしゃるならことは全く別の問題になります。

〇〇ゴルフクラブ支配人 様

これは、投函される事のない手紙、ですから手紙ではないのです。私の独り言、言わばグゼリです。猟期終了を待って差出すつもりでやったのですが、気が変わりました。需要を絶っても供給者は新たな需要を探す、CMではないけれど元から絶たなきゃだめ、ゴルフ場になまじ情をかけるのは止めました。



「ザルそば頂戴」「今は温いのしか御座居ません」「じゃそれで良い」。で、出されたのが幼モノメコそば。無知な私は有害鳥獣として駆除されたものが、合法的に利用される事もあるのだろうぐらいに考えていました。カルガモならまずくても食べられるから、払下げてくれと言う人が現れ、それが許可になると思っていたわけですが。ところが大先輩に何うとその様な事はあり得ない、総て焼却処分するとの御返事で、自分の無知を恥入っております。同時にムカ。腹を立てて書いたのが、冒頭の大人気ない手紙です。

自分だけの密かな楽しみとしての密猟であっても、とても見過してできないのに 堂々と食堂のメニューにのっているとは。これからもしかすると、目を光らせなければならぬと思います。

アメリカウズラシギの観察

新潟市 町田喜彦

昭和55年9月7日の四ツ郷屋浜探鳥会で、アメリカウズラシギ *Calidris melanotos* が発見されました。新潟県初記録だそうです。当日は大勢の方が観察されているのですが、私が代表して報告いたします。

場所は越前浜に近い砂浜で、そこではトウネン、ハマシギ等の沢山のシギ・チドリ類が餌を漁っており、それらを望遠鏡で見ている時、背中に白くVの字が見え、一見ウズラシギによく似たシギを見付けました。しかし全体に赤褐色に乏しいのが気になり、ウズラシギの近縁種を捜していた時、新潟県自然保護課の本間隆平さんが「これだ!」と指さされた図鑑の絵を見て、アメリカウズラシギだと分りました。

アメリカウズラシギは、ほとんど同形、同大のウズラシギに比べ、体色に赤褐色みが乏しく、胸の縦斑が明瞭で、白い腹部との境目がはっきりしている(高野、1975)ことが色別のポイントとなりますが、これらの特徴をよく備えていました。

その後、9月12日にその場所を訪れた時には、幸いなことにウズラシギも一緒に採餌しているのを見付けました。しかし逆光線であった為、体色の相違は見分けられませんでした。が、胸の特徴は、はっきりと相違しているのが分りました。

アメリカウズラシギは、シベリア東北部、及び北米極北部で繁殖し、冬期は北米大陸を経て南米へ渡る(小林、1976)とされており、日本では新潟県以外でもあまり記録されておらず、秋の渡りシーズンに、稀に1羽、若しくは2羽程度居るのを観察されるのが、殆んどようです。(新潟市 五十嵐, 新潟大学内)

(引用文献)・高野伸二(1975)シギ・チドリ類の見分け方4、野鳥、40:421-425。
・小林桂助(1976)原色日本鳥類図鑑、保育社、123

ベニバラウソと

アカウソの観察

東京都 叶内拓哉



アカウソ (撮影：渡部 通)

昭和56年1月4日、東蒲原郡鹿瀬町日出谷に野鳥撮影に出かけた際、道路脇にあった樹令30年程の桜の木にウソが7羽いた。さっそく車を止めてカメラを出し、撮影し始めたが、その頃より雪が降り出し、レンズを上方に向ける事が出来なくなる程であった。しかし近くにいる雄は腹部が赤いアカウソである。私は無理してでもと、撮影を続けた。そうこうしている時、アカウソの後方にもう一羽のウソがやって来て、桜の芽を食べている。後姿であるが、それは一回り大きく、翼に白い帯がくっきりと見える。私はすぐにそちらへレンズに向けた。その時、私の方へ腹を見せたウソは真赤なウソである。そうです、それは夢にまで見た、あここがれの鳥、ベニバラウソであった。私はレンズに雪が積っているまま、それを撮影した。あせていたのだ。？ アカウソはサハリン以北から冬期飛来して来る。アカウソより腹部が鮮やかな赤色をしていて、大雨おおい先端がはっきりと白い亜種がカムチャッカ等から飛来する。これをベニバラウソといひ、日本での記録は少ない。

(高野伸二著、野鳥識別ハンドブックより)

(東京都調布市小島町3-82-6

さつきコーポ201号)

カルガモの白化

東蒲津川町 渡部 通

カルガモは河川、湖沼等に最も普通であり、一年を通じて見られる種である。

私は新潟市内の信濃川において、本種の白化個体を観察(図1)することが出来たので報告する。なおいろいろ御教示いただいた本会副支部長 千葉 晃氏に深謝の意を表する。



カルガモの白化個体 (撮影 渡部 通)

◎観察年月日：1979. 11. 8

◎観察場所：新潟市幸町、信濃川右岸(八千代橋上流)

◎観察者：常山秀夫、千葉 晃、渡部 通

◎観察状況：約20羽のカルガモとホシハジロ、ユリカモメなどが採餌遊泳する群れの中に白化した1個体を認め観察を行なった。全体に白色であって、目撃した時はアヒルではないかと思ったが、カルガモの中にあっては常にリーダー的な行動をとりながらも2~4羽で行動することも多かった。蹠、水かきは橙色、嘴は黒色で先端が黄色、さらに虹彩も通常のカルガモと同様であり、飛翔力も変化はなかった。1979年の冬期間(1979、10~1980、8)と1980年の冬期間(1980、10~1981、2、7現在)普通に観察された。

◎考察：Albinism(白化現象)は各種の動物に認められるが、特に鳥類に多く代表的種類としてカモ類、キジ、ヤマドリ、ヒバリ、ツバメ

ヒヨドリ、モズ、メジロ、ホオジロ、スズメ、カラスなどがある(加藤、1977)とされ、カルガモの白化例は少なくない。又白色となる因子には優勢と劣勢とがあって、優勢白色因子がヘテロで因子群に組入れて不完全な白化となることがある(黒田、1967)とされ、今回の例も羽色が白化となっているものの、虹彩と嘴は白化してなく(白化であれば虹彩は赤色、嘴は肉色)特に虹彩と嘴は白化しにくいといわれ、完全な白化は珍しいとされている。又当該個体は2年続けて出現しており、興味

のあるところである。夏期においても近隣の河川、湖沼等での生息、繁殖が充分考えられ、今後とも留意して観察活動が続けていきたい。

◎文 献

- 1) 黒田長久(1967):オオミズナギドリの班白化例(附記)日本鳥学会
- 2) 加藤忠一(1977):ヤマガラの白化例 四季のつどい 83、東浦自然同好会 (東浦原郡津川町三郷乙)



各地の鳥

◎上越ブロック

81年1月1日ノスリ(1) 糸魚川梶屋敷 1月15日オナガ(5)、トラツグミ(2)、アカハラ(2) メジロ多数、糸魚川一の宮 1月16日教室の窓からモズが小鳥(種不明)をひきずるように口にくわえて飛んでいるのを目撃、図のよう



な感じ。すぐ近くの常緑のやぶの中にかくした後近づてきたもう1羽のモズをばいしく追私うのを見ました。1月18日シメ(1)

糸魚川町の中 (観察者 鷲沢澄雄)

◎中越ブロック



あけましておめでとうございます。元日午後二時信濃川にオシロウが来ていました。まっ黄色のくちばしが目に光っていて、こ冬の信濃川の王様かや、て来ました。カササギ、タゲリ、オシロウ、ヒバリ、ユリカモ、カモメ、コガモ、マガモ、カルガモ、オシロウ、シメ、今年もよろしくおねがいします。

80年10月10日イヌワシ(幼1)中魚中里村清津峡(観察者 木下 徹)

10月19日マガモ(♂8♀1)ハシビロガモ(♂1♀4)ヒドリガモ(14)コガモ(1)北魚小出町麦平の池、11月2日シメ(3)、ベニマシコ(11)ミヤマホオジロ(2)、11月5日上空コサギ3群(計147)以上小出町青島、81年1月1日タゲリ(1)ジョウビタキ(1)、1月6日ハギマシコ(100)キハダの実を食べに、1月11日カモメ成幼 1月18日ウミネコ、アトリ(1)以上小出町向山 1月18日トラツグミ、メジロ、湯之谷村大沢 1月31日クサシギ 小出町青島 (観察者 柳瀬昭彦)

1月18日カワラヒワ(1)、オナガ(2)、タヒバリ(1) タシギ(3) カワガラス(3) ハクセキレイ(2) セグロセキレイ(3)、ホオジロ(1) イカルチドリ(2) マガモ、カルガモ、コガモ(計100士) タゲリ(2) ハシボソガラス(2) カワセミ(1) トビ(8) アオゲラ 魚野川 六日町城巻橋 (観察者 木下 弘)

1月6日トラツグミ(1)、1月9日ウソ(6)、1月18日ツグミ(1)、タシギ(2)、キクイタダキ(6) シジュウカラ、ヒガラの混群(±20) 1月15日アオゲラ(1)、シロハラ(1)、エナガ、ヒガラ シジュウカラの混群(±30) 以上刈羽郡刈羽村 1月17日 タゲリ(±30) 柏崎市鯖石川河口上空 (観察者 渡部 通)

1月6日アカエリカイツブリ(1)、ミミカイツブリ(2) ミツユビカモメ(1) ウミネコ(148) セグロカモメ(15) オオセグロカモメ(4) ユリカモメ(1) カモメ(1) 寺泊港 1月7日シロハラ(3) 与板町本与板 コハクチュウ(18) カワアイサ(2) 信濃川与板橋上流 1月11日 ミツユビカモメ(3) 寺泊港 1月16日ベニマシコ(1) 与板町東与板 1月17日ウソ(7) 与板町本与板 1月18日オジロワシ(2) 信濃川与板橋下流、2月1日クロガモ(155) ビロードキンクロ(2) ウミアイサ(1) アビ(1) アトリ(5) 寺泊町野積 2月7日コクガン(1) 三島郡出雲崎 (観察者 渡辺弘雄)

2月1日オオワシ成鳥、11時45分より 12時(曇) 長岡市脇川 信濃川 (観察者 太田実)

◎下越ブロック

1月2日 トラツグミ(2)、キジ(3)、アオゲラ(2)、マヒワ(±30) ツグミ(±30) ヒヨドリ(±10) 1月11日 トラツグミ(1)、ウソ(4)、アカウソ(2)、マヒワ(±20) ツグミ(±20) 以上津川町三郷(観察者 渡部 通) 1月18日ハイロチュウヒ(♀1) 1月31日ハイロチュウヒ(♀1) 大型カモメ幼鳥(1) オオバン(2) ハマシギ(50+) 以上新潟市佐潟(観察者 木下 徹) 1月18日ヒシクイ(1160) オオハクチュウ(111) 2月1日ヒシクイ(1050) コハクチュウ(185) オオハクチュウ(88) 以上福島潟 1月18日 マガン(110) 国道116号線沿い水田(西川町) (観察者 小野島 学) 1月15日ハイロヒレアシシギ(1)、シノリガモ(2) コクガン(1) 船着き場コンクリートにメサノリを盛んに食べていた。(18日まで観察) 以上村上巖船港 (観察者 宮越一俊) 1月4日~23日トビ、キジバト アオゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ツグミ ヤマガラ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス 上川村(積雪1.5m) (観察者 小池重人)

・コハクチュウ 11月11日新潟市五十嵐上空18羽 夜間 ハクチュウの声がしたので急いで窓を

開けると上空を佐潟方向に飛んで行く一群が見えた。空は快晴で、月のない暗い星空をバックに、白く浮き出た鳥が飛んでいく姿は実に美しかった。時計を見ると8時45分を指していた。鳴き声からコハクチュウであると判断。

・瓢湖は今「アメリカ」オンパレード 12月22日現在瓢湖にアメリカヒドリ アメリカコハクチュウ アメリカカガモが生息しています。このうちアメリカヒドリは、11月18日に初めて観察して以来1ヶ月以上も経過しており、ハクチュウの餌にも付いているので長居をしよう。 1月10日のこと 瓢湖に居るアメリカヒドリをプロミナーで捜し出し、「今日も居てくれたか」と満足し、他のカモの方へ目を向けると、またアメリカヒドリが視野に入ってくる。こんなに早く移れる筈がない。そうなんです。実はアメリカヒドリが2羽も居たんです。しかし、またとないショーもこの日限り、翌日にはまたもとのとおり 1羽だけになってしまいました。(観察者 町田喜彦)

トリを愛するひとを探る(1)

・国勢調査(55.10.1)と県支部会員数(56.1現在)

村上圏	8.9万人	4人	柏崎圏	10.8万人	20人
新発田圏	15.0	3	六日町圏	7.2	6
新潟圏	77.9	66	十日町圏	8.0	3
五泉圏	8.3	10	上越圏	27.0	19
三条燕圏	27.1	13	糸魚川圏	6.1	3
長岡小出圏	41.1	29	佐渡圏	8.5	0
新潟県合計	244.1	180	県外会員		5

・男性(♂)と女性(♀)との割合
新潟県民男性 1,193,624 : 女性 1,257,782
県支部会員 男性 160 : 女性 20

・支部会員の年齢構成(生れた年の年代区分)

昭 40 (2)	昭 30 (17)	昭 20 (18)	昭 10 (20)	昭 17 (11)	大 正 治 (10)	明 治 (9)	?
----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	---------------------	---------------	---

新 入 会 員

下記の方が新しく会員となりました。
探鳥会でお会いいたしましょう。
鳥だより・写真など気がるに事務局まで送っ
て下さい。

- 176 岡 研一 956 新津市新金沢町
19-6
- 177 五十嵐敏行 950-21 新潟市坂井
2282の5
- 178 橋本春雄 957 北蒲原郡豊浦町字
荒町
- 179 叶内拓哉 182 東京都調布市小島
町 3 の 82 の 6 さつきコーポ201号
- 180 佐藤和広 950-01 新潟市江口 3234-3

事務局だより

今冬は 厳しい寒波が続き、雪いじりの毎
日でした。お変わりございませんでしょうか。

- ◎各地の鳥だより、写真、記録など、どしど
し事務局までお寄せ下さい。
- ◎全国大会が6月に裏磐梯高原(福島県)で
開催されます。新潟県支部では合同で参加
したいと考えています。参加希望の方は早
めに事務局までお知らせ下さい。
- ◎高野伸二先生の識別ハンドブックは売れゆ
きが順調です。ぜひ支部を通じて購入下さ
い。 野鳥を楽しむ必読必携品です。

トリを 3 ヒトを探る(Ⅲ)

- 都道府県別野鳥の会会員数(80年5月末現在)
- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 1位 東京 2,232人 | 9位 長野 240人 | 個人会員 9,161名 |
| 2 神奈川 797 | 10 茨城 214 | 法人会員 7社 |
| 3 埼玉 561 | 11 兵庫 207 | 野鳥の会支部数 |
| 4 北海道 468 | 12 宮城 206 | (81年2月62支部) |
| 5 千葉 406 | 13 福岡 195 | 北海道 11 近畿 4 |
| 6 愛知 339 | 14 京都 168 | 東北 9 中国 5 |
| 7 静岡 333 | 15 新潟 165 | 関東 9 四国 2 |
| 8 大阪 299 | 16 群馬 159 | 中部 17 九州 5 |
- 海外の野鳥関係団体の会員数
- | | |
|--------------------|-------|
| イギリス鳥類保護協会(RSPB・英) | 32万人 |
| ナショナル・オーデュボン協会(米) | 28 |
| ドイツ鳥類保護協会 | (独) 6 |
| オランダ鳥類保護協会 | (蘭) 3 |

編集後記

厳しい寒波のなか 早々とたくさんの原稿
をいただいているながら発行が遅れたことを御
詫言致します。

毎月送られてくる“野鳥”と季刊の“支部
報”をいつも見て楽しんでた一人の会員だ
った私が、今回編集させていただきつぎのよ
うなことに気がきました。

・新潟県が広いこと ・野鳥の会に入会してい
てよかったこと ・入会していない人たちに呼びかけ
てもっと多くの仲間を増やしたいこと。

これから春を迎え、探鳥にもってこいの季節とな
ります。諸兄のますますの発展を祈ります(木)

日本野鳥の会新潟県支部報 №10 (春)

発行 昭和 56 年 3 月 15 日 編集 木下 弘
発行所 (財) 日本野鳥の会新潟県支部
〒 959-44 新潟県東蒲原郡津川町三郷乙 1193 番地
電話 02549 (2) 5045 渡部 通方
振替 新潟 6002 会費 年額 4000円 (本会費とも)